

農業で生命を見つめる

山形県寒河江市立陵南中学校

三年 秋 葉 弘 明

僕が小さい時、小ネズミを見つけると、祖父が排水溝の中に入れて殺してしまった。

「ネズミは農作物を食うから生かしてはおけない。」と、祖父は言った。僕も前からそれは知っていたため、特に驚くことはなかった。僕の母が小さいころ祖父母にネズミがかわいそうだと聞いた時、

「ネズミ殺さねど作つたもの皆食われで俺だち生きでがねべな。」

と、怒られたらしい。農業で作物を育てるのはとても大変なことで、数時間見ない間に、苗がほとんど枯れてしまうこともある。

「生き物相手にする分、何が起ころが分がねのが農業だからな。だからあんまり弘にはおすすめしないな。公務員や会社員みだにはもうがらねがら。」と、祖父から言われた。しかし僕は農業が好きだ。さくらんぼや米やりんごが育っていくのを見るのはとても楽しい。さくらんぼの花や実が咲いたり実つたりする力は去年の秋からためられていた養分で行われる。

ある時、ふと疑問に思ったのが、自然界のピラミッドのことだ。理科では習っていないが、予習がたら

に教科書を読んだりして少しは勉強している。普通は弱肉強食、ミミズをネズミが食べ、ネズミをタヌキが食べる。しかし今、人間は米や野菜などの別の物を得るためにじゃまな物を取り除くということをしている。それでは、何も残されていないのではなにか。例えばネズミを食べるタヌキは死がいないの養分を微生物に残す。しかし、駆除は、害敵に何を残すのだろうか。

もし、農家が害敵の駆除や対策をしなかったら、害鳥や害虫が作物を食い荒らしてしまう。農家の、そして作物を買ってくれる人の生活を守るためにこれらの害敵に対して駆除、対策するのは当然のことだとさえいえばそうだが、僕はそれに少し違和感を覚えた。

僕の家では柿も育てている。これは、家で食べるための柿だ。少し前の柿を収穫する秋、祖父は木の下の方にある柿を取って木のこずえあたりの柿はとらなかった。

「なして上の柿ば取んねの？ 脚立使えば取れるんねの？」

と、僕が祖父に聞くと、

「脚立使つたつて取んの大変だし、こだいたくさん食えねべ。上の方は鳥に食ってもらうのよ。」と、言った。柿が実るまでは木に来ていた害鳥を追い払いすらししていたのに、わざわざ苦労して育てた柿を害鳥にやっってしまうのか。なんでそんなことをするのだろうかと思ひ、祖父に聞いたところ、

「たくさん収穫できて、自分達が十分に食べられたら、生き物もおすそわけしてけらんねべ。」

農家は、果物を育てている時は、果物をねらう害敵と戦っているが、無事収穫できた時には、生き物たちと恵みを分け合うことが礼儀だと常に思っていることに気づかされた。

これらのことから、自然のピラミッドは、弱肉強食だけが全てではないことが分かった。人間が、自然の恵みをうまく考えて収穫すれば、ピラミッドのバランスはくずれないだろう。

僕は将来エンジニアになりたいが、農業へのあこがれもある。今は経済的な理由でその道は見すえていないが、いつか、将来の夢は農家だといって安心される世の中になれば良いと思う。そのためには、世界中の人々が生産と消費のバランスをよく考えて、必要以上の命を取らないようにし、その命を循環するようにしなければいけないと思う。例えば木を切ったら植えたり、魚を栽培漁業して獲ることで命は守られると思う。将来一人の大人としてこの循環を保つことに協力したいし、このことを忘れないように生活したい。また、これらのことについて僕が考えられたのは、僕が農業に多くふれられたからだと思う。もしふれる機会がなかったらこれほど深く考えられなかったと思う。なぜなら農業は、育てている生命、害虫、害鳥などの生命、そして生産物を食べる僕達の生命をそれぞれ深く考えながら営むものだからだ。このような素敵な職業が身近にあることに感謝し、もつと深く関わりながら生きていきたい。